

平成 27 年度

中部地域における ESD 推進に関するセミナー

実施報告書



実施期日：平成 28 年 3 月 29 日(火)13：30～16：30

会場：ウインクあいち(愛知県産業労働センター)1301 会議室

目次

セミナーの目的	1
セミナーのねらい	1
セミナーの概要	1
スケジュール	3
業務実施体制	6
セミナーの記録	
開会挨拶と趣旨説明	7
基調講演	7
トークセッション	11
パネルディスカッション	
活動事例①	12
活動事例②	14
活動事例③	16
パネルディスカッション	18
閉会挨拶	20
参加者アンケートの集計結果	21
業務打ち合わせ・検討会の記録	32

資料編

セミナーの目的

平成 28 年度から実施が予定されている「ESD 推進のための先導的地域拠点整備事業（以下、「拠点整備事業」という。）」では、地域の環境教育の先導的な拠点となる場（海・山、動物園、水族館、博物館等）において、ESD が目指す能力を養う環境教育プログラムを作成し実証することとされている。中部地方環境事務所及び中部地方環境パートナーシップオフィス（以下、「EP0 中部」という。）では、中部地域管内での拠点整備事業の実施にあたっては、これまでの ESD 推進に係る事業を通じて構築した学校・教育委員会等とのネットワークを活用し、地域と学校が連携した協働による事業展開を想定している。しかしながら、①地域で ESD を実践する社会教育施設や NPO 等（以下、「地域活動団体等」という。）においては、学校現場における ESD のあり方・位置付けについての情報が不足している、②学校においても、地域活動団体等が持つ地域のポテンシャルやシーズを十分に活用できていないなど、地域と学校との連携に向け、ミスマッチが生じていることが課題として挙げられている。本セミナーは、拠点整備事業の実施に向けて、地域活動団体等の学校教育における ESD のあり方の理解の促進及び学校が地域に期待するニーズと地域のシーズとのミスマッチの解消に資することを目的とする。

セミナーのねらい

- 学習指導要領における ESD の位置付け及び教育現場での実践状況の把握
 - 学校のニーズと地域のシーズの把握及びミスマッチ解消に向けた方策の整理
 - 学校関係者と地域活動団体等との交流の促進
- ↓ ひいては…
- 拠点整備事業における「地域－学校」間の調整の円滑化と協働の促進
 - 拠点整備事業における学校連携による相乗効果や課題の発掘等、先進事例としての情報の蓄積と全国へのフィードバック
 - 地域における自発的な協働取組の促進
（学校と地域拠点が連携した独自の教育プログラムの展開など）

セミナーの概要

- 1 開催日程：平成 28 年 3 月 29 日（火）
- 2 開催場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
- 3 セミナーの構成：
 - ①基調講演
 - ②トークセッション
 - ③パネルディスカッション
 - ・活動事例①
 - ・活動事例②
 - ・活動事例③
 - ・パネルディスカッション

セミナー出席状況

【都道府県別】

※総出席者 56 名

都道府県名	出席者
愛知県	29 名
岐阜県	3 名
三重県	5 名
無記入	8 名
アンケート提出ナシ	8 名
総数	53 名

(60 名定員で募集、申込者数 66 名であったがキャンセル・当日欠席等により 53 名となった。)

【属性別】

属性	教員(小・中・高校・大学)	11
	教員関係者(大学・教育委員会他)	5
	市民団体/NPO 等	17
	地域の各種団体(自治会・子ども会、他)	2
	事業者	3
	行政	1
	その他	8
	アンケート提出ナシ	8

セミナースケジュール

13 : 00 受付	■ E S D プログラムの映像の放映
13 : 30 開会	開会・あいさつ (環境省中部地方環境事務所環境対策課環境管理専門官 村辻裕樹) オリエンテーション
13 : 40 基調講演	講師：名古屋大学名誉教授、神奈川大学特別招聘教授 安彦 忠彦氏
14 : 40 トークセッション	登壇者：名古屋大学名誉教授、神奈川大学特別招聘教授 安彦 忠彦氏 国立大学法人愛知教育大学教授 大鹿 聖公氏
14 : 55	休憩
15 : 05 パネルディスカッション 事例紹介	ファシリテーター：特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ 新海 洋子氏 ●事例紹介 テーマ「学校と地域が連携によって何が生まれるか」 活動事例発表① 東山動物園 副園長 黒邊 雅実 氏 (15分) 活動事例発表② 三重県総合博物館 館長 布谷 知夫 氏 (15分) 活動事例発表③ 武豊町立富貴中学校 校長 西尾 一 氏 (10分) ●パネルディスカッション (35分) 登壇者：西尾氏、黒邊氏、布谷氏、大鹿氏、(進行) 新海氏 ●まとめ 安彦先生 (5分)
16 : 30 閉会	閉会 あいさつ (環境省中部地方環境事務所環境対策課課長補佐 曾山信雄)

告知チラシ

※告知チラシにつきましては、以下に示す「ESD 推進セミナーのご案内」表面・裏面を参照

■ ESD 推進セミナーのご案内 ■



環境省中部地方環境事務所では、地域における ESD の推進に向けて、地域の環境教育の拠点となる場・社会教育施設（動物園、水族館、博物館、海・山など）と学校との連携の促進に資するべく、**学校と地域とのつながりのあり方を考えるセミナー**を下記のとおり開催いたします。

地域で環境教育活動に関係されておられる方、地域で活動する NPO 等地域の団体の方、学校教育関係の方、自治体の環境教育のご担当者、ESD や本セミナーに興味を持たれた方など、広く参加をお待ちしております！

詳細は、中部地方環境事務所のホームページ（<http://chubu.env.go.jp/>）をご覧ください。随時情報を更新しております。

■ 申込み・問合せ先：裏面をご覧ください。

【プログラム】

基調講演 |

持続可能な社会と学力

～現行及び次期学習指導要領をめぐって～



【講師】

名古屋大学名誉教授 安彦 忠彦 氏

学習指導要領における ESD の位置づけと教育現場での実践状況について

トークセッション

| ESD と地域のかかわり方の将来像

基調講演を踏まえ、ESD と地域のかかわり方の将来像を提案します。

名古屋大学名誉教授
安彦 忠彦 氏

×

愛知教育大学教授
大鹿 聖公氏

活動紹介 | 地域拠点からの活動発表

代表的な社会教育の施設である動物園と博物館における施設運営・活動事例について、ESD の視点も交えて発表します。

- ① 名古屋市東山動物園 (副園長 黒邊 雅実氏)
- ② MieMu 三重県総合博物館(館長 布谷 知夫氏)



パネリスト ディスカッション

| 学校と地域がつながるためには？

【パネラー】 安彦 忠彦 | 名古屋大学名誉教授
大鹿 聖公 | 愛知教育大学教授
黒邊 雅実 | 名古屋市東山動物園 副園長
布谷 知夫 | MieMu 三重県総合博物館 館長
西尾 一 | 武豊町立富貴中学校 校長

【ファシリテーター】 新海 洋子 | (特定非営利活動法人)お"ラング"・お"バ"・お"ズ" 理事

＜主 催＞環境省中部地方環境事務所
＜後 援＞国立大学法人愛知教育大学
＜協 力＞環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)

学校と地域が ESD でつながる
そのためのヒントが盛り沢山です
・学校が地域との連携で期待することは？
・地域のポテンシャルの活用方法は？
是非、セミナーにご参加ください

開催概要

2016 年

3 月 29 日 (火)

13:30～16:30

ウインクあいち

1301 会議室

(JR 名古屋駅すぐ)

定員 60 名

参加費 無料



中部地方環境事務所

環境省

タイムスケジュール

13:30	開会・オリエンテーション
13:40	基調講演 「持続可能な社会と学力」 ～現行及び次期学習指導要領をめぐって～ 安彦 忠彦氏（名古屋大学名誉教授）
14:40	トークセッション 「ESDと地域のかかわり方の将来像」 安彦 忠彦氏（名古屋大学名誉教授） 大隅 聖公氏（愛知教育大学教授）
14:55	休憩
15:10	活動事例報告 ①名古屋市東山動物園（副園長 黒邊 雅夫氏） ②MisMu 三重県総合博物館（館長 布谷 知夫氏）
15:40	パネルディスカッション 「学校と地域がつながるためには？」
16:30	閉会

会場案内

ウインクあいち 1301会議室



名古屋市中村区名駅4丁目4-38

- ・JR名古屋駅桜通口から
ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

申し込み手続き

締切り：3月22日(火)

①お申し込み方法

- FAXの方は、参加申込書に必要事項を記入の上、右の申し込み先まで送付して下さい。
- 電子メールの方は、件名欄に「ESD推進セミナー参加申込み」と明記し、本文には参加申込用紙の記載事項をご記入の上、送付して下さい。

②お申し込み後について

お申込み後、1週間～2週間程度で、受付した旨FAX又は電子メールでお知らせします。

※定員を超えた場合、参加をお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

申し込み先・事務局

株式会社Comodo LABO（コモド ラボ）

担当：加藤・小川

T 497-0002

愛知県あま市七宝町遠島泉水816

TEL：052-485-8550

FAX：052-485-8550（TELと同じ）

Mail：esd@comodolabo.com

セミナーの問合せ先

環境省中部地方環境事務所 環境対策課

担当：村辻

TEL：052-955-2134

FAX：052-951-8889

Mail：REO-CHUBU@env.go.jp

参加申込書

FAX:052-485-8550／E-mail:esd@comodolabo.com

氏名(ふりがな)	所属組織・団体名(ふりがな)	部署・役職
ご住所(所属組織・団体の住所でも構いません)		ご連絡先(いずれかをご記入下さい)
〒		TEL:
		FAX:
		E-mail:
参加の動機・ご質問等 (自由記述)		

(注) ご記入いただきました個人情報、本セミナー開催の口外以外には使用しません。

業務実施体制

○総括責任者：加藤 美奈

○実行責任者（全体指揮）：小川 彩

○サブリーダー：加藤 美奈

○会場担当：

- ・受付・会場案内：加藤美奈・坂部 千佳
- ・記録：内藤 大輔
- ・司会：熊沢 豊
- ・進行管理：小川 彩

※セミナー当日におけるスタッフ等関係者の動きは、資料編の「ESD の推進に関するセミナーのスケジュール」参照

セミナーの記録(要約)

◆開会挨拶と趣旨説明

村辻裕樹 氏（環境省中部地方環境事務所 環境管理専門官）

開会にあたって、主催者である環境省中部地方環境事務所の村辻氏から、本セミナーの趣旨説明を兼ねた挨拶が行われた。

今回のセミナーについて、最初に基調講演で学校でのESDの位置付けを把握、トークセッションでそのポイントを整理するという流れであること、その後、活動事例発表で地域拠点や学校の活動を知り、パネルディスカッションで地域拠点と学校がつながってESDを進めるためのヒントを見付けたいという構成であることの説明が行われた。



◆基調講演：

「持続可能な社会と学力 ～現行及び次期学習指導要領をめぐる～」

安彦忠彦 氏（名古屋大学 名誉教授／神奈川大学 特別招聘教授）

安彦忠彦先生による基調講演の概要は以下のとおりである。

●現行学習指導要領への導入経緯と次期学習指導要領への導入可能性

ESDは、2014年に国連の運動としては区切りがついたが、以降も推進していくことが2012年に決められた。日本では、ユネスコスクールが平成27年（2015年）5月現在で939校と、目に見えるかたちで進んでいる。現行の指導要領では、社会科や理科の中にESDの趣旨を表すような言葉が入っている。

次期指導要領の社会的背景として、私は21世紀社会の4つの様相があるにとらえている。

1点目は、日本も先進国として第一線に立ったこと。モデルとなる国がないので、記憶力より考える力が中心になる。正解のない問題への臨機応変な問題解決能力が求められている。次の指導要領の元となる中教審特別部会の論点整理では、2030年には今ある仕事のうち65%は無くなっているという。どういう仕事が新たに取って代わるのか予想がつかないので、このままでは今からする能力の準備は6割5分か

ら7割近く無意味になる。そこを無意味にならないような教育をしなければならない。

2点目は、知識基盤社会になったこと。電子機器や人工知能などの発達が目覚ましく、人間の方が使われてしまいかねない状況にある。人間が主体性を保持することを真剣に考えなければならない。情報化が進み、あふれる情報を組織化できる力を持たないと、振り回される状況にある。

3点目は、グローバル社会となったこと。国境を超えて情報や文化が交換される時代になり、一国の出来事が他国に影響を与えていく。さらには環境問題など国境を無視して影響が及ぶ。国を超えて、地球的な視野で事象を見る、多面的で柔軟な思考力が必要になる。

4点目は、地球環境問題、あるいは原子力問題が深刻化するだろうこと。単なる「環境」問題ではなく、「地球環境」問題の方が決定的である。人類全体の存続に人間が責任を負わなくてはならない時代になっており、歴史的に今までなかった新しい段階を迎えている。このままだと、かなり早い時点で取り返しがつかないときが来るのではないか。既にそのときが来ているという科学者もいる。地球環境問題はそうした観点で見なければならず、ESDに強く期待している。



●ESD とコンピテンシー重視との親近性

次の学習指導要領ではコンピテンシーという、実生活に生きて働く能力、特定の教科ではない汎用性の高い能力概念が取り入れられている。この考え方は、ESD が持っているものと共通すると言われている。今までもこのような ESD と親近性が高い能力の育成は取り組まれてきているが、次の指導要領もコンピテンシー概念に則ったものとなる。

現在の中教審での論点整理では「三つの柱」が挙げられている。1点目は、何を知り、何ができるか、といういわゆる基礎的な学力。国語で言えば言語技能、算数で言えば計算技能、といった個別の知識・技能である。2点目が、知っていることをどう使うか、という汎用的スキル。次の指導要領ではこの能力を育ててほしいと考えられており、コンピテンシー概念の中核になる部分である。3点目が、どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか、という態度や意欲、振り返りなどの学びに向かう力。今、問題になっているのは、ここに「人間性」という言葉

が加わったこと。人間性というのは全体的な概念だから違和感があるが、これらを資質・能力として求めていき、構造的に目に見えるかたちにしたいということである。

次の学習指導要領は体裁が変わるはずである。今は各教科とも最初に「目標」が掲げられている。各学年の目標が数行あり、資質・能力が書いてある。そのあとに、「内容」という項目が何十行も書いてある。こうなっていると、先生が指導要領を見たときに、内容を扱いさえすれば目標は身に付くのだらうと、結果として内容重視の教え方を誘発している。次の指導要領ではおそらく、この構成を反対にしたつくりにする。つまり、能力の記述を増やして、内容を減らしていく。体裁を変更することで、内容重視からの脱却を図るということにウエートが置かれると思う。指導要領の変わり様に注目していただきたい。

●ESD についての記述

中教審の論点整理には「持続可能な開発のための教育」についての記述があり、要領を変えていくという方向性の中で、ESD の考え方が取り入れられている。次の指導要領では資質・能力にウエートが置かれるが、能力を何のために使うのかは、人格から生まれるものである。問題なのは、論点整理では主体をどのように育てるかについて何も言っていないこと。それに関わるのが ESD ではないか。

日本では ESD について、国立教育政策研究所を中心に国としての方向が出てきている。持続可能な社会づくりに必要な能力や態度が挙げられている。これを踏まえた学習指導を進める上で、教材のつながり、人のつながり、能力・態度のつながりを相互に連携させていかなければならない。各教科担任に任せるのでは済まなくなってきた、教科と教科をつなぐ努力が必要になってくる。次の指導要領で言われるのは、カリキュラムマネジメントである。各教科を連携させて総合的な力を育てるというマネジメントの仕方が、学校全体の先生方の意識として生まれてこなくてはならない。

●重点とそれ以降の必要性：環境保全を優先！

ESD は国連が進めてきたこともあり、世界中には様々な問題を抱えた国があるため、扱う問題が多岐に及んでいる。社会科でやれること、理科でやれること、国語でやれること、道徳でやれること、全部を含めている。ユネスコが広い視野で展開している運動を、日本でそっくりそのままやる必要は無い。どの教科でもやれないことの 하나가環境であり、環境保全を優先して扱っていくべきである。個別教科では扱えないと同時に、人類生存の基盤が環境問題に依存しており、危機的な状況にあるという現実がある。それぞれの国が本気でこの問題に取り組まなければ、取り返しがつかなくなる状況になっている。国ごとに優先課題を決めてよいとされているわけだから、先進国は環境問題を中心に据えてはどうか。日本の場合は、実施計画の中で「先進国が取り組むべき環境保全を中心とした課題を入り口として、環

境、経済、社会の統合的な発展について取り組み」と述べているのだから、これを文字どおり実行すればよいのではないか。

●地球環境問題の悪化による緊急対応の必要性

20 世紀半ば以降、原爆を端緒として、人類はその生存を自ら管理しなければならなくなった。世界中の原爆を一度に使うと人類を 7 度全滅させられるという今までに無かった時代になっている。

日本は様々な環境汚染問題に加えて、原発による放射能汚染問題があり、2 世代以上に影響を与えている非常に困難な問題である。資源問題、エネルギー問題、環境問題などは全て私たち自身に責任があるということ突きつけており、多くの有識者が問題提起をしている。教育には、こうした問題に正面から向かい合う姿勢が必要ではないか。

●ESD と次期学習指導要領に望むもの

教育の場にどのように ESD を取り込むのか。1 点目は「自立と共生」を今後の教育の正面に据え、特に地球環境問題を優先的に取り上げて、問題の解決策を探り実行する。持続可能な社会づくりが盛んに言われているが、中身が広すぎて焦点化されていない。社会づくりの前に環境づくりではないか。

実際に ESD が指導要領にどのように関わっていくか、文科省では「資質・能力を重視する今回の改定において、持続的な社会を創造するために資質・能力を見定め、それを軸に各教科等の指導事項をいかに構造化できるか」が問われているという認識はあるようだ。実際に論点整理を見ると、全教科にわたって、経済、社会、環境などが色々なかたちで入っている。「総則や各教科等の中に溶け込まれている」ということのようなが、ぱっと見てどこにあるか見えにくい。現場で先生方が読んでも、どこに何があるのか気が付かないのではないか。ESD の考え方を見る化・言語化して表現しなければならず、「近代教育思想」の超克が必要である。ルソー以来の引き出す教育が現代にも通じるという発想では済まない状況になっている。

●終わりに

人類の持続的な生存発展を第一優先としなければならず、皆が同じ認識を持つためにも、公教育である学校が、どの子どもにも教え、どの子どもも学ばなければいけない。

社会の変化に対応していくためのコンピテンシー能力はあくまで手段であり、主体である「私」がどう使うかという道具である。道具を何のために使うかは主体にかかっている。どの子どもも未来の主権者になるのだから。能力にばかり目を向けず、主体形成に目を向けなければならない。引き出す教育よりも制御する教育を重視する。それを何につなぐのかをいつも考えていかなければいけない。

◆トークセッション「ESD と地域のかかわり方の将来像」

安彦忠彦 氏／大鹿聖公 氏（愛知教育大学理科教育講座 教授）

大鹿氏と安彦氏によるトークセッションが行われ、基調講演のポイントが整理された。

その概要は、以下のとおりである（質問（Q）は大鹿氏、回答（A）は安彦氏）。

Q 次の学習指導要領で資質・能力を身に付けさせる目標中心の記述に変わったとき、学校の教員は戸惑うと予想されるが、どのように取り組むべきか？

A 現行の指導要領でも小中学校では活用型の学習が意識されている。まずは各教科において知識・技能を活用する学習の慣らし運転をした上で、総合的な学習に子どもたちを導く。

Q ESD にはさまざまな題材があるが、先生は地球環境問題が最も大事だと話した。日常から離れた題材の授業は難しいと察せられるが、どのような切り口が考えられるか？

A 例えば「食」を題材にすれば、海外から輸入される食料もあり、子どもも興味を持ちやすい。また、「気象」も地域を限定した題材ではなく、どこの学校のどの子どもでも関心を持てると考えられる。教員は多くの題材を用意する必要がある。フランスの社会科の教科書は、世界から学ぶ内容である。インターネット上の映像も使えるし、子どもは遠い出来事と思わないだろう。

Q 今までの能力開発型の教育よりも、これからは能力制御型の教育が求められると、先生は話した。制御型の教育とは具体的にどのようなものか？

A 複眼的にもものを見る習慣をつけること。完全な善人はおらず、悪い面を持ちつつも、それを制御しながら良さを保ったり、調整していくのが実際である。リアリスティックに人間がしていることを見ていけば、危険に手当する姿勢を身に付けられる。

Q 次の学習指導要領には ESD の考え方が入っているが、具体的なものは見えにくい。今日参加した教員が、ESD を知らないほかの教員に広めていくとき、どのような方針で伝えるべきか？

A ほかの地域でも通用する普遍性を持った、開かれた実践であってほしい。特に地球環境問題は、地球的規模の問題であることに留意すべきである。



◆活動事例発表①「東山動物園の環境教育について ～学校教育と動物園～」

黒邊雅実 氏（名古屋市東山動物園 副園長）

名古屋市東山動物園 副園長の黒邊氏より、動物園の環境教育について事例発表が行われた。

その概要は以下のとおりである。

●動物園における学習機能

動物園は学習の場として、学校の利用が全体の5%、約15万人ある。個人の学習者向けにはホームページで公開する「セルフガイドシート」21種と「学習ワークシート」がある。最近では、環境教育が重要になってきて、勉強したいと訪れる方も増えている。

●環境教育プログラムの実施状況

東山動物園では平成20年より「再生プラン」のもとハード面が整備されているが、ソフト面の充実も図っており、平成21年より環境教育プログラムが実施されている。平成28年度プログラムは「動物園について学ぶ」「動物と環境について学ぶ」「動物の体を学ぶ」「動物の社会と行動を学ぶ」「野生動物をもっと深く学ぶ」「どうぶつ入門コース」の6カテゴリー、35講座が予定されている。受講者は、開始当初は1,000人程度であったが、平成26年度は229校・8,298人、平成27年度も約1万人が見込まれている。小学校からの申し込みが最も多く、中学校が次いで多い。

●人気のある講座

第1位「飼育員のしごと」はキャリア教育として人気がある。学校のニーズに応えた講座と言える。第2位「どうぶつ園のじゅうい」は小学2年生の国語の教科書の題材で、動物園が「教科書に合わせると多くの人に利用してもらえることを学んだ」講座である。第3位は「絶滅の危機にある動物」。第4位「メダカ講座」は理科の授業での利用が最も多いという講座であるが、名古屋市内に自然のメダカはほぼいなくなっている。

●名古屋メダカの里親プロジェクト

「名古屋メダカの里親プロジェクト」は2010年・COP10開催の年に開始され、現在も年1回続けられている。名古屋メダカは、もともと名古屋大学が約70年前に市内で保護したメダカを継代飼育しているもので、東山動物園が平成5年に開館したメダカ館で譲り受けて継代飼育している。この名古屋メダカを一般参加者に預け、自宅で繁殖してもらい、増えたメダカを戻してもらうという保全体験プログラムである。

●今後の課題

今後については、講座以外にも、教材の貸し出しなど、学校教育の支援を充実したい。開園 80 周年を迎える東山動物園でリニューアルが検討されている動物会館については、生物多様性や、人間が野生にどうかかわっているか、なぜ動物が減ってきているのかを学べる展示にしていきたい。「動物園を『楽しむ』から『保全』の心へ」をテーマに、保全の意識を伝える環境教育の取り組みを続けたい。



活動事例発表②「博物館から地域社会への働きかけ」

布谷知夫 氏（三重県総合博物館（MieMu） 館長）

三重県総合博物館 館長の布谷氏より、博物館から地域社会への働きかけについて事例発表が行われた。

その概要は以下のとおりである。

●博物館の仕事と目的

博物館の仕事について「展示」は事業のほんの一部である。資料の収集保管、教育学習、展示、研究調査を「博物館の4つの事業」と言い、これらを総合的に行うのが博物館の仕事である。今、博物館の目標は「成果を地域の人に情報発信し、自分が暮らしている地域の自然や歴史・文化のすばらしさに気づき、その地域が好きになるようにすること」であり、自分が住んでいる地域を好きになれば、この地域をもっとよくしたいと思うはずである。学び、行動する人を増やすことを目的に、取り組みが進められている。

●「大人になっても残しておきたい地域の宝・魅力さがし」

平成22年度に夏休み、ティーンズプロジェクトが実施された。子どもたちはグループごとに、地域の宝・魅力に関するテーマを決め、地域の人たちから話を聞くなどの調べ学習を行った。テーマは「海の調査」「津に落とされた焼夷弾」「玄関のしめ縄調査」など。調査資料を整理・分析し、地域の魅力をみんなに伝える成果発表が行われた。その成果物はすべて、博物館の資料になっており、「博物館の4つの事業」を子どもたちの目線で行ったプロジェクトである。

●お雑煮調査

西と東の文化が交錯する三重県は、地域ごとに違った雑煮が作られている。子どもたちが自分の家庭の雑煮を調べ、集まった調査カードは3,500枚。大きく分けて9種類という雑煮の、県下での分布が調べられた。435人の申し込みがあったという雑煮発表会では、全員で試食。子どもたちは家族で話し合い、地域の食文化など気づきがあっただろうと思う。

●タンポポ調査

タンポポ調査は2000年から広域で始まり、2010年は西日本全域18府県、2015年は19府県で一斉調査が行われた。調査票が集められる府県ごとの実行委員会は、ほとんどが自然系の博物館に事務局が置かれている。博物館は、地域の人々が地域について調べるための中心として、役割を果たしている。

●人にとって最も楽しく、効果的な学びとは

人にとって最も楽しく、効果的な学びとは「自分で課題を見つけ、調べた結果、わかること」である。それによって地域を再発見できる、博物館はその手伝いをしている。地域のことを考えた方はきっと、自分の地域が好きになると思っている。私たちは、地域を調べることが、ESD そのものだと考えている。



活動事例発表③「学校現場での ESD を軸にした地域施設とのかかわり」

西尾 一 氏（武豊町立富貴中学校 校長）

武豊町立富貴中学校 校長の西尾氏より、学校現場での地域施設とのかかわりについて事例発表が行われた。

その概要は以下のとおりである。

●発電の仕組みについて考える

中部電力・愛知教育大学・武豊町の産官学連携による電力資料集作りにかかわっている。その活用例として、富貴中学校にて電力の授業が行われた。

発電の仕組みにかかわる授業は小学校からあり、中学校では理科、社会、技術・家庭科の教科で扱っているが、子どもたちはよく理解できていない。中部電力の担当者に相談すると、担当者は実験を提案してきた。カセットコンロの上に水の入った圧力鍋を置き、沸騰させるとノズルから勢いよく蒸気が出て、それが風車に当たりモーターを回して発電し、LED 電灯がつく。子どもたちの目の前で行われたこの実験は、実感を伴った理解へと導いた。

こうした地域の施設や企業からの資料提供や授業支援は極めて有効だと評価している。学校はどこに何があるのかほとんど掴めていないのが現実であり、地域からの積極的な資料提供・授業支援を期待したい。

●「ESD は必要・重要」とはいうものの

学校は今、子どもたちの学び方を変える、大きなターニングポイントに来ている。ESD の持続的発展の可能性を担うのは子どもたちの資質能力であり、今の学校の課題と合致する。次期学習指導要領の改定に向けた論点整理にある「知っていること、できることをどう使うか」、「どのように社会・世界とのかかわり、良い人生を送るか」は、重点的に取り組まなければならない課題である。授業を変え、学校を変えなければいけない状況は切羽詰まっているという危機感を持っている。

●ESD を軸にした学校と地域施設とのかかわり

これまでの学校の地域施設利用については、遠足や社会見学などで物見遊山的に扱ってきた。これでは、これから求められる子どもたちの力はなかなか付いてこない。

学校には教育課程や学校日課、時間割などの縛りがあり、特に中学校はがんじがらめになっており、学校の教員が地域に出ていくのはほとんど不可能である。

一方の地域施設は、学校から見ると利用しにくい。特に、企業の施設は少人数に時間をかけて、丁寧に全てを説明する傾向があるため、まとまった人数の生徒に対して「興味・関心を持たせるところだけをお願いしたい」と考える学校とのミスマ

ッチが生じているようだ。

これからの学校と地域施設については、それぞれの場所で学習したことに端を発して、子どもたちが次々と興味関心を持って追求していく学びを作らないといけない。学びを完結させず、学校と地域の施設が協力しながら作っていきたい。



パネルディスカッション「学校と地域がつながるためには？」

パネリスト：大鹿聖公 氏／黒邊雅実 氏／布谷知夫 氏／西尾 一 氏
ファシリテーター：新海洋子 氏（特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ 理事）

事例発表に続き、新海氏がファシリテーターとなり、パネルディスカッションが行われた。

その概要は以下のとおりである。

F（ファシリテーター）： 大鹿氏によるこれまでの発表を受けた所感と教育大学が担えることについてのコメントがほしい。

大鹿： さまざまな施設がさまざまな教育プログラムを実施しているが、あまり知られていない。教員がそれを知った上で現場に立つか、知らないまま立つかの違いは大きい。学生を県内 10 カ所以上の地域施設に連れて行っている。学生や若い教員は、施設を自分が小学生や中学生の時にに行った記憶で認識しており、教育活動の場として捉えていない。大人になってから行くことで視点が変わる。教育大学としては、学生や教員を地域の施設に連れて行くことと、様々な立場の人ができることをつなぐ場になることができればと考える。

F： 地域の人ができることは

大鹿： 教員と親だけでなく、地域も巻き込んだ「チーム学校」として、地域の人たちも積極的にかかわっていくことが大事である。学校の教員が地域に探しに行くことは難しいため、地域の人から一歩踏み込んで、こういうことができるという情報を伝えるとよい。

F： 安彦氏が話した人格の形成、主権者となるための教育についてどう思うか

西尾： 中学校を卒業して 3 年後には選挙に行くため、意識するようになっている。憲法学習を 10 年以上実施しており、憲法について調べて、子どもたちに授業している。話のネタはたくさん見付かり、楽しみながら人格形成のための学習ができる。

布谷： 人格という言葉を意識したことはない。ただ、博物館はものを教えない場。質問があれば答えるが、知識として教えることはしたくない。博物館は課題を見つけて、ものを考える場であり、一人の個として成立する人間を作っていくのだろうと考える。

黒邊： メダカの里親プロジェクトで、参加者にメダカを預けて自宅で増やして戻してもらう過程で、子どもは育てられる側から育てる側に移る。メダカを死なせてしまうことで気付きがあったり、増やして貢献できたという満足感があったり、良い効果につながっている。可能性を感じている。

F： 学びを行動に移していく道筋作りについてどう考えるか

安彦： 主体として育てていくこと。主体として尊重されることがなければ、人格は育たない。子どもの教育とは、自立させること。自立していなければ、能力を持っていても人形のように使われてしまう。子どものうちは他者による教育だが、大人になったら自己教育する。自己決定し、自己教育できる力が育ったかが、一つの基準だろう。

F： 参加者の皆さんへのメッセージをお願いしたい。

布谷： 博物館を一人ひとりにうまく利用してもらうことで、結果、地域に結びつくようなことをしていきたい。博物館に行って学芸員と話をし、博物館で何ができるかを知り、広めていただければ、地域全体が元気になると思う。

黒邊： 動物園は生命の博物館と言われるように、本物が見られることが一番のメリットである。映像でもきれいに見ることができる時代だが、編集された映像と本物とは違う。シャバーニが大変話題になったが、実際に本物を見に来てくれて、あれだけの人気につながったのだと思う。

西尾： 先ほどの話で、中部電力にこのような写真を資料集に入れてほしいと要望した。鉄塔の真上から真下を見た写真。これは作業の危険性がよく分かるものだ。それから、様々な種類の鉄塔・電柱の写真、中央制御室の写真、雪の中を復旧に向かっている人たちの写真。全部、中部電力にあった。地域には優れた教材もあれば、人材もいる。教員には子どもたちに寄り添って考えられる視点がある。だから、コラボして学習プログラムを開発していけば、子どもたちに真の楽しい学びを提供できる。それが、主体性を持って学び、主体的な人間になることにつながっていくだろう。ぜひ、学校に一声かけてもらいたい。

大鹿： 知らないことは知っている人に頼るのが最も良い。理科を教えるとき、博物館や科学館は情報の宝庫で、力を借りる。自分が1しか知らなくても、1万になる。いろんな人とつながって、かかわっていくことで、授業も学校での指導もふくらんでいくし、これからのESDのつながりにもなる。私もその一翼を担いたいのので、ぜひ愛知教育大学に来てもらいたい。

安彦： 子どもが主体性を発揮できる場、主体性を認められる場を増やす。そのために地域連携を強めていく。やればできる世代で、主体性を認めてあげれば人格は育つ。文科省と日本ユネスコ国内委員会が、ESD 推進の手引きを作った。主に教育委員会、教育センター、指導主事向けで、校長までは届くと思う。校長先生の視野やリーダーシップはとても大きく影響する。国も手引きを使って ESD を全面的に展開していく姿勢であるので、皆様も協力してほしいし、このような流れを受けて、活躍してほしいと思う。中教審の各教科の専門部会でも ESD の考え方が取り込まれているが、見えにくい。皆さんから、取り入れてほしい提案があれば、伝えてほしい。



◆閉会挨拶

曾山信雄 氏（環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐）

中部地方環境事務所 環境対策課 課長補佐 曾山信雄氏から、今回のセミナーから様々な仕組みが生まれていくことを期待したいとする旨の挨拶が行われ、閉会となった。



参加者アンケートの集計結果

総回答数：45

参加者：53 名

セミナー内容に関するアンケート

1. 本日のセミナー内容について、特に印象に残ったものとその理由についてお答え下さい。(該当項目に○、複数回答可)

ア. 基調講演²⁴ イ. トークセッション¹¹ ウ. 活動紹介①名古屋市東山動物園¹¹ エ. 活動紹介②MieMu¹¹
 オ. 活動紹介③富貴中学校¹³ カ. パネルディスカッション¹²

<理由>

詳細別紙参照

2. 本日のセミナー内容について、全体としてはいかがでしたでしょうか？(ご意見・ご感想・ご要望など)

詳細別紙参照

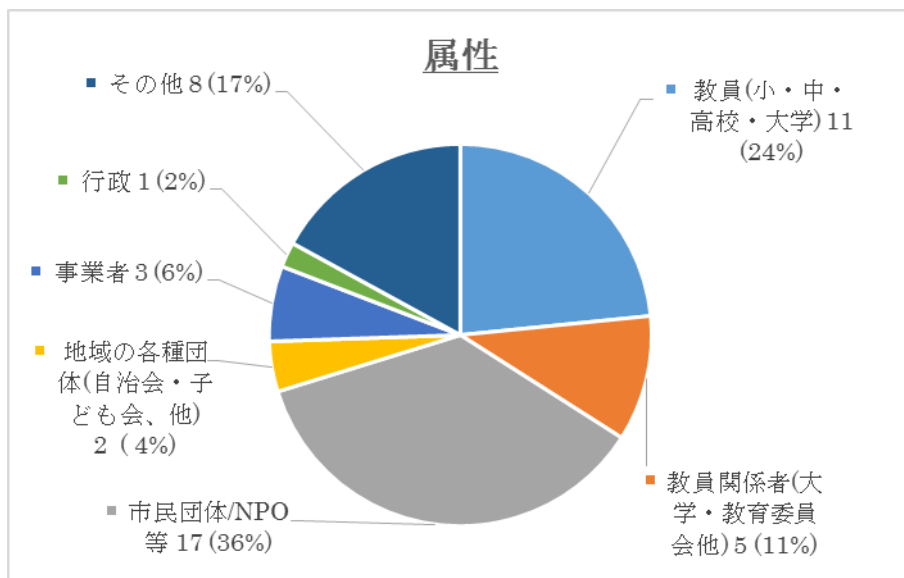
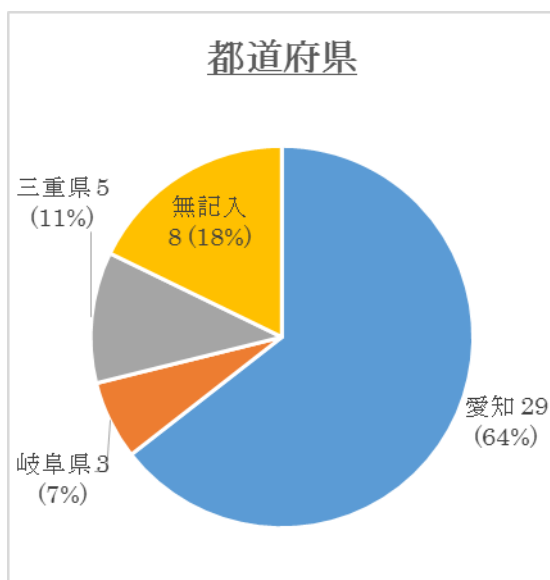
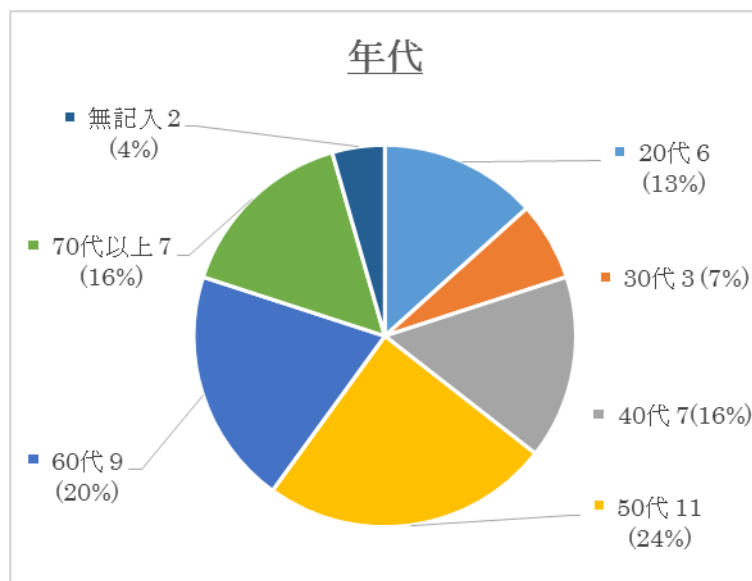
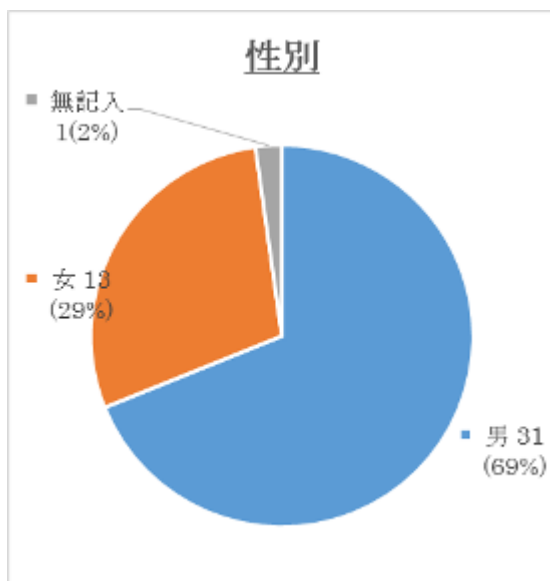
3. ESD にどのようにかかわられているか教えてください

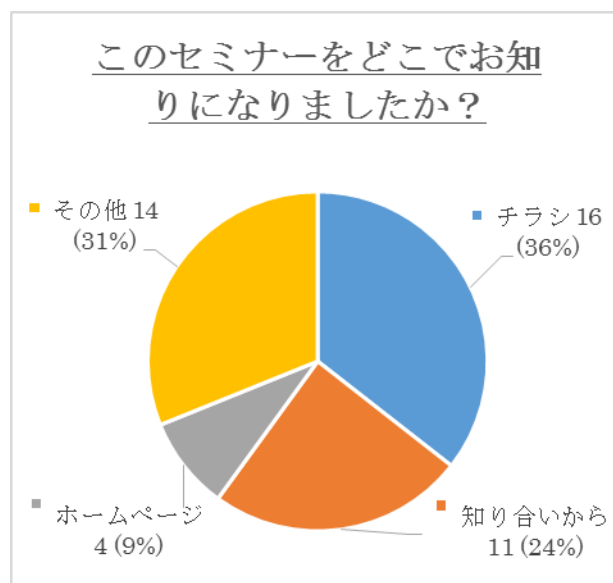
詳細別紙参照

4. 今回のセミナーの内容を、ご自身の活動にどのように活かすことができると感じられましたか？

詳細別紙参照

性別	□女性 ¹³ □男性 ³¹ 無回答：1
年齢	□20代 ⁶ □30代 ³ □40代 ⁷ □50代 ¹¹ □60代 ⁹ □70代～ ⁷ 無回答：2
都道府県	
属性	□教員(小・中・高校・大学) ³ ¹ ¹¹ □教員関係者(大学・教育委員会他) ⁵ □市民活動団体/NPO等 ¹⁷ □地域の各種団体(自治会、子ども会、他) ² □事業者 ³ □行政 ¹ □その他()
このセミナーをどこでお知りになりましたか？	□チラシ (いつに配られたチラシでしたか？ ¹⁶) □知り合いから(¹¹) □ホームページ(⁴) □その他(¹⁴)





◆このセミナーをどこでお知りになりましたか？

チラシ：地球温暖化推進員の配布物 2

カリキュラム研修 1

地球温暖化セミナー3/15 1

大学に掲示 2

県温暖化防止活動推進事務所から 1

知り合いから：大鹿先生からのご紹介 1、大鹿先生のフェイスブック 1

新海さんからの紹介 2

学校長 ESD 部 1

その他：中部地方事務所からのメール案内 2

ボランティアネイバーズメール 1

インターネット 1

地球温暖化防止センターからのメール 1

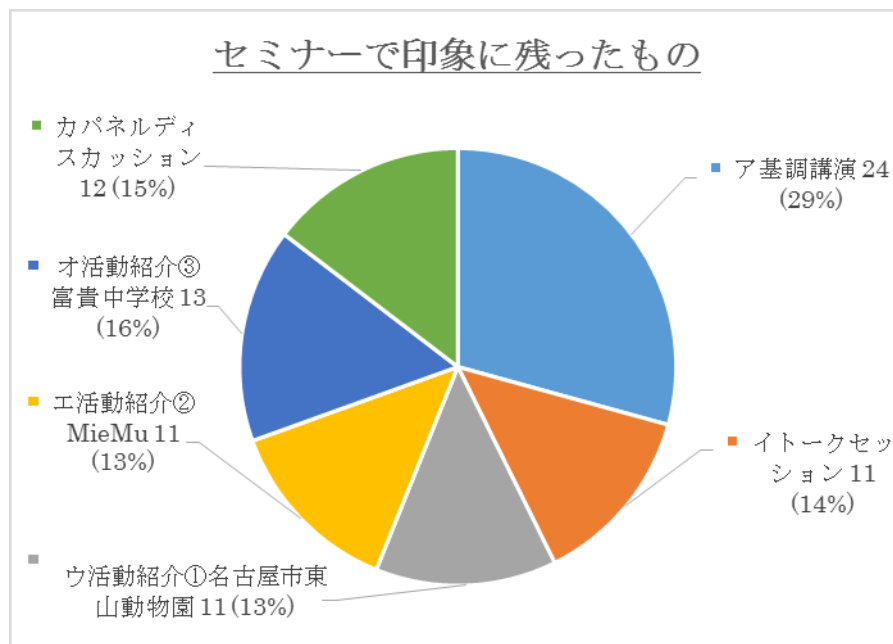
役員によって案内有り参加しました 1

ESD 研修の案内から 1

Eメール 3

フェイスブック：誰かが紹介していた 1

EP0 中部からの紹介 1



1. 本日のセミナー内容について、特に印象に残ったものとその理由についてお答え下さい。

- ・総合学習だけにとどまらず、どの教科でも活用型能力を引き出す学習内容になっているというところ。毎日、学校での実践のなかでとかく時間がなくなって、省きがちだが、この 4 月からは大事に実践していきたい。(セミナー内容該当項目○ナシ)
 - ・ESD の今後の方向が分かった。動物園・博物館の活動を知ることができた。(ア・ウ・エ・オ・カ)
 - ・最後の先生方のコメントが印象に残りました。主体的に伝えられる親の自立が大切なんだと思いました。(カ)
 - ・大変共感できた。とても学びが深まった。教育の場で安彦先生からの学びを生かしていきたいと思った。(ア)
 - ・ESD の本質について考えることができた。(イ・カ)
 - ・具体的かつ心の入った言葉が数多く聴け、背中を押してもらえたから(カ)
 - ・環境関係の公務員でした。いま大学院で地球環境問題を教えています。来年度 2 年目になり、教育の方法、内容について思案しているところです。
- 基調講演には大いに刺激を受けました。多くの項目を教えないといけないのですが、そのベースになる考え方を学びました。(ア)
- ・情報の流通が必要であると分かったため。(オ)
 - ・教育関係者としては安彦先生の話聴くことができたのはよかったです。トークセッションで聞いていただいた質問はどれも的確でまさに気になったところでしたので、ありがたかった。(ア・イ)
 - ・教育の手段と目的の違いを明確に解説いただき、感銘した。各施設の活動内容の豊富さを知る事ができた。(ア・イ・ウ・エ・オ・カ)
 - ・ESD に関し文部科学省のポジションがよく理解できた。(ア)

- ・ 安彦先生(ア)
- ・ 公教育＝学校教育というスタンスが残念でした。(ア・カ)
- ・ 先生の話は良くわかる様に思います。全員の方には理解できるのかな？(ア)
- ・ 今の安彦先生のお考えを知りたかったため。(ア)
- ・ ESD を考える上で「地域」と「グローバル」な部分とどちらに重点をおいて取り組むべきか悩んでいたが、どうあるべきか考えるいいヒントを得た。(ア・イ)
- ・ ESD はとても幅広い内容でつかみにくい中で、今日のお話でかなり方向がはっきりして良かった。“ESD は環境保全を優先する” 大賛成です！動物園もいろいろやって見えることがわかった。ホームページチェックしてみます。(ア・ウ・エ・オ・カ)
- ・ 「引き出す」教育を内に含む「つなぐ」教育を行わないと自ら破滅の道を早めることになる。(ア)
- ・ 安彦先生のお話の中でいつも思っていることを理論的に言葉にさせていただきました。能力主義の中で、人格が上位にあると考えを聴いて安心しました。統合された能力が育ちつつあると今の学校運営・中学生に感じています。学校の先生の方が「硬い」能力を限定している年代がメインのようにも感じます。実情の中でできることを粛々とするつもりです。(ア・エ)
- ・ 地球温暖化の考え方について、その通りかと思います。地政学については？(ア・ウ・オ)
- ・ 動物園の社会的機能としていろいろ行っている事を始めて知りました。もっといろいろな機会を利用して PR してほしいと思いました。訪問人数だけで他の施設との比較ばかりしか耳に聞こえてきませんでした。愛知県には総合博物館がありません。地域の資料収集・研究資料がどこかにいつてしまっています。県単位で博物館を残して社会に還元させる為のノウハウ等も聞けるとよかったです。(ウ・エ)
- ・ 自分自身の活動の参考になりました。基調講演内の“ランダース氏”のページ、温暖化問題等の深刻化…。(ア・オ)
- ・ 環境教育の中での ESD の位置づけがよく分かりました。今まで不安な所がはっきりしました。(ア・イ)
- ・ ESD に取り組んでいる姿勢が感じ取れてよかった。どれかに○印をつけるのははばかりされる(雰囲気)なのでやめました。地球を生かすことが我々の生存につながるということを強く感じさせられました。
- ・ 連携の面で共感できる部分が多かった。(オ・カ)
- ・ 学校と地域のつながり方が短時間でもよく分かった。(エ・オ)
- ・ 教育思想・教育哲学の話もうかがうことができ、今後の取り組みにこういう視点も生かしていこうと思っています。(ア)
- ・ ESD 教育の現状と課題を知る良い機会となってよかった。(ア)
- ・ ESD について先生の教育がなされていない。やはり、説明をしてあげる必要がある。地域の人と一緒に勉強を要す。(ア)
- ・ 我が国が優先的に取り組む課題として環境問題を取り上げなければならない。(ア)
- ・ ESD の基盤に地球温暖化問題を考えることへの納得ができた。■質問…各教科の中に溶け込まれている
- 意見…これでは多忙な学校の教師はわからない。明確に「こことここをつなぐとこんなことが可能」と示してほしいと思いますがどうでしょう？(ア)
- ・ パネルディスカッションがとてもおもしろかったです。いろんな立場の方のお話がうまくからみあって、分かりやすく楽しくきかせていただきました。(イ・ウ・オ・カ)
- ・ 基調講演がやや難しい内容だったので、その後のトークセッションでうまく質問していただいたので、

分かりやすかったです。地域施設との関わりで、それをきっかけに学びを広げていく視点を大切にしたいと思いました。(イ・オ・カ)

- ・企業として ESD に関与する参考になったので(ウ・エ・オ)
- ・博物館の使い方(エ)
- ・ESD に関することをはじめ、これからを担う子どもたちの在るべき姿、目指すべきものを知り、改めて考えるきっかけができたため。(イ・カ)
- ・学習指導要領に基づいたお話であり、現場の声もしっかりひろって話して下さったので、具体的に考えられた。

2. 本日のセミナー内容について、全体としてはいかがでしたでしょうか？(ご意見・ご感想・ご要望など)

- ・とても勉強になった
- ・よかった
- ・社会が変わる中で教育現場での教育方針が ESD の考え方を含んでいる事、方向性がわかりました。各セクションのつながりを気づくことができました。
- ・大変勉強になりました。
- ・メダカの生態をもっと深く詳しく伺いたかった。
- ・指導要領で“具体的に明記し紛れさせない”ことが重要だと思いました。
- ・全体としてとても参考になるセミナーでした。私も NPO として地域や学校とどうかかわれるのかを考えたいです。
- ・ESD と地域の関わりについて、様々な視点からのお話を聞くことができ、参考になりました。
- ・good!
- ・全体として充実した内容であり、参考になった。
- ・ものすごく参考になった。経済界を対象にしたセミナーの開催も必要。
- ・とても気づかされる事が多かったです。目的・手法の差への理解、本質の見つめなおしができました。
- ・ESD の対象者は子供だけでなく、大人も含まれるはず。学校だけで ESD は完結できないので、もっと大人を対象とした ESD を考えてみてはいかがでしょうか？学校を終えて主体的な学びだけで立派な自立した人になれるものではないはず。社会教育にもっとお金をかけて ESD を推進する体制づくりこそ必要だと思っています。
- ・良かったように思います。E は何か。S は何か知りたい。D は何か(受講番号 046) 私だけの様に思われる。
- ・学校の外(地域社会・企業の連携)について考え、有効なお互いに有益な関係になれる仕組みを意識したい。
- ・有益なセミナーで教育にも役立つ。
- ・できれば質問・発言を言える機会があればよかった。やや一方通行になった気がする。
- ・一般活動を実施している人を含めディスカッションも入れて、一般ボランティア活動の立場を含めてディスカッションもあると良いと思う。考えさせる活動。

- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・人類が豊かさや便利さを追求した結果、今や人類の生存を考えないといけないことに気が付いた。ESD は必然的な人類のテーマであり、問題は ESD をどのように効果的に今後展開できるかにかかっていると思います。先生方の活躍に期待しております。
- ・自分として大変参考になりました。
- ・おもしろかったです。自分にもう少し余裕があると落とし込めると思います。
- ・学びたい事とは少し考えたものとは違っていました、勉強になりました。
- ・パネルディスカッションが楽しかった。
- ・地域と学校のつながり又行政のつながりが必要。パイプ役になるのは環境カウンセラー・温暖化センターの推進員・環境のエキスパートだと思います。又学校側も環境に対して前向きになることが大切。
- ・参加させていただいてとても得る所が多かったし、よかったです。有難うございました。
- ・環境問題に関心を持っている者としては今の世界状況はおそろしいということを実感させられた。原子力(発電・爆弾)がおそろしい。これからも世界でどんどん増加していつている。どうなるのか？
- ・理念として ESD 導入を考えている方と、実際の地域や学校が考えていることにへだたりを強く感じました。何をどことつながろうとするかによって、全く取り組み方が違う事を感じました。
- ・ESD 推進セミナーとして適切な内容だったと思います。いろいろな立場の方が集まっていたので、それぞれの立場でのセミナーも開いてほしいと思います。(すでにやっていると思いますが…)
- ・いろいろと勉強になりました。本日のセミナーのような催しの動画をネット上で後で見ることができるといいと思います。
- ・質問する方が、全体的な目線に立って質問されるので中だるみせず受講できました。
- ・中学生の見学会の実例の話があつてとてもよかった。体験してよく見てレポートする。
- ・今までの復習になりました。
- ・トークセッション 15 分は短すぎだと思います。でも大鹿先生がいろいろ聞いてくださったので安彦先生のお話がわかりやすくなりました。
- ・地球温暖化問題や人格形成等、より広い視野で、教育活動を推進していく視点を持ちたいと思いました。
- ・発言の機会が欲しかった!!
- ・意見の聞く時間がほしい。
- ・参加者同士による意見交換の時間がほしかった。
- ・あっという間の 3 時間でした。考えさせられる事がたくさんありました。学校現場でより力を入れて実践したいと気持ちになれた。

3. ESD にどのようにかわられているか教えて下さい

- ・教員として
- ・授業実践
- ・保育園で「ちきゅうがおねつだ」環境紙芝居の読み聞かせとうちエコの話をして、感想画を年長児に描いてもらっています。小学校で県の「STOP 温暖化教室」を担当して、環境とくらしを考える講座。

- ・交通教育という視点から、市民や教育の場に当事者意識を持たせるような NPO 活動を通し、SBI という視点からルールとマナー教育の必要性。
- ・かかわっていません。興味があるだけです。
- ・環境学習の推進、事業者指導を通して。
- ・私大大学院で非常勤講師として、県立高校で NPO として蛍飼育・指導・飼育水槽の水質調査を理科部活動のお手伝いをしています。ESD の観点をもちつつ接していきたいと思います。
- ・教員研修として。
- ・授業で導入している。
- ・技術面からの活動はしているが、一般人対象の講座等に限られている。
- ・四日市公害を経験したまちから、持続可能な社会の構築を望むなど(産・官・学・民の連携)
- ・普及啓発
- ・E 何の事なのかわからない。参加者はわかって居るのかな？S 何の事かつかみにくい。良くわかっていない。ESD その事について知りたい。私だけなのかなー。
- ・文科省(国立教育製作研究所)選択の ESD 研究校の講師、助言者として。
- ・自社にある施設で環境学習の推進に関わっている。
- ・地球温暖化防止委員の活動している中で、小さな集まりに高齢者・幼児と様々な人の集まりで話を進めるに非常にむずかしい。まずはポイントとして高齢者に復習の意味で進め新しい提案をして進める方法。
- ・環境学習ボランティアとして地球温暖化防止・ゴミ削減・水生生物調査などについて市民・子ども達に話をさせていただいてます。
- ・環境と防災。
- ・ESD を意識した授業プログラムを考えて実践しています。
- ・今はかかわっていない。
- ・学校を離れての地域のおじさんで子どもたちとかかわりあっています。
- ・まちづくりセンター長として ESD のカリキュラムへの参考にしたい。又学校土曜授業の内に ESD を取り入れていくための参考にしたい。〇〇〇長としては地球温暖化を中心について授業を実施していますが今後カリキュラムの内容をどのように充実するか。
- ・現場実践の講師をさせていただいている。
- ・機会がするごとに話をしている。話もだいじ(しないよりはまし)だが、実際に何か実行実践することの大事さを思った。
- ・高校の科学部顧問として、地域の水族館や環境課と連携して環境活動を行っています。
- ・前任校で研究実践に取り組んでいたが、現任校ではほとんどかかわりがない。
- ・大学教育に ESD をどのように展開すればいいのかを考えています。
- ・大学の整備計画を立てる際に「環境教育」の観点から何を取り組めるか検討している。
- ・従来の授業と考えを変えて、授業を見直す、考えて実施する。
- ・平和公園をフィールドとして子ども達に四季を通じて話し、見る、聞くを話しています。
- ・私にとってとても興味深い講座でしたが直面する地域や行政、学校の意識と格差が大きくなっていくことに(ちょっと)ため息が出たりします。

- ・小学生教諭として、主に総合的な学習で ESD の視点を取り入れている。
- ・プログラム企画や協働への関与(窓口)
- ・まだ関わる事ができていない。勉強をしているところです。
- ・みあい特別支援学校(小・中・校)各部での取り組み・ESD の分掌部会・青年海外協力隊 愛知 OB 会く
あいち国際理解教育勉強会>・4 年持続学校(豊田市旭町の里山にて)

4. 今回のセミナーの内容を、ご自身の活動にどのように活かすことができると感じられましたか？

- ・来年 4 年生のゴミ問題から、いかに環境問題に結びつけていくかということへのヒントを得たような気がする。
- ・来年度の活動方針
- ・今日のお話を通して、環境講座の内容や伝え方ややりとりの仕方を見直して、どう参加してもらうのか考えるきっかけになりました。
- ・地域・域域拠点学校などの多様な団体をつなぐことを活かすことができた参考になる。
- ・活かす場がありません。一番後の席では講師の話が聞き取りづらいときがあったので工夫して下さい。
- ・とてもとても役立ちます！ありがとうございました。
- ・身近な問題から世界を見るという手法を今の立場で活用してみたいと思います。人格の形成についていろいろ考えさせられました。
- ・研修内容を考える際の視点として。
- ・学生に伝えること。
- ・精神>身心これが教育の重要性和感じ、人に伝えていきたい。
- ・企業 OB としてできることから仲間を増やす。ESD は地域づくり、人づくりでもある。高齢者の活躍できる場所である。
- ・自分を見つめなおすことになり、EE をどうすすめるかの柱をつくりなおすことができると思う。
- ・話しを聞いているとわかる様に思うけれど縦社会の場所が多くて、横へは進まない様に思われる。
- ・情報の収集→(ESD の視点から)→情報の精選
- ・21 世紀教育の研究・実践を行っているため、ESD、伝統文化、論理的思考力…など活かしていけます。
- ・「資質」と「能力」を考えたカリキュラムづくりを意識して取り組みたい。
- ・地球温暖化委員での一部紹介を組入れ、温暖化にこそ大きな視野からの見方を広め地域家庭の役割を考えさせる。
- ・伝える言葉を作る時の知識にとして活用させて頂く。
- ・ボランティアと地域のつながりが必要。
- ・大鹿先生の「知っている宝庫」に聞くことは一番の ESD だと思いました。「つながり」の教育、ふだん考えていたことなので自信が持てました。人格>能力についての意見を心に落とし込みます。Mie「地域を愛すること→地球を守ること」いつも思っています。同じ意見です。来てよかったです。
- ・新たなテーマを考えていきたい。
- ・おしつけではなく「自ら考え行動する子ども」を目指して地元で頑張っていきます。
- ・私自身岐阜県垂井町の公民館長ですが、4 月からまちづくりセンターとして新しく事業を進めていくの

ですが、私個人として環境カウンセラー、岐阜県地球温暖化防止活動推進センターの推進員として今後どのような企画をしたらいいのか参考になりました。

- ・頭ではなく、手足を動かして実践することの大切さがわかりました。
- ・いろいろな資料をいただきましたので、関係しているところの啓蒙に使いたいと思います。
- ・時期学習指導要領の方向性を知ることができ、指導に役立てると思いました。学校はいかに地域の力をお借りできるのかを、しっかり考えるべきだと痛感した。
- ・現任校に ESD を取り入れるためのエネルギーをもらった。
- ・ハード面で地域と教育を「つなぐ場」をサポートしていただきたい。
- ・環境問題、エネルギー問題を一緒に取り組んで見出してつづけること、どんな小さなことでも良いから続けていく。
- ・環境カウンセラーとして協会で各種団体に働きかけをしたいと思います。
- ・安彦先生のご講演はもやもやした ESD について頭を整理するとともに自信になるすばらしいお話でした。これからの活動の基礎としたい。
- ・4 月からの授業にぜひ生かしていきたいと思います。(1 年担任なので、まずは動物園の活用のしかたを考えます！)
- ・社会貢献プログラムを考える上で配慮する点が多少把握できた。一方で企業連携のハードルがやはり高いということを実感する面もあり、現段階では何とも言えない。
- ・ESD について何も知らずに参加させていただいたのですが、この機会に自分なりに ESD について考えて見ようと思います。
- ・公務員志望なので、もし就くことができれば、主体性を認められるような場をつくることができるかもしれない。
- ・行政職に就いたときに、知識等を現場に伝えていきたい。
- ・週末の里山暮らし、海外(フィリピン)での国際協力活動の経験を現場の特別支援学校の授業で活かしていきたいと感じました。

業務の打ち合わせ・検討会の記録

業務打合せ・検討会の記録

No. 1

委託業務名	平成27年度中部地域におけるESD推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成27年12月28日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	業務着手時の打合せ (電話による)		
(出席者) 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 コモド: 小川彩			
(打合せ・検討内容) ・ 仕様書内容の確認 ・ 企画内容の確認 ・ 会場の検討 ・ 情報セキュリティポリシーについて			
(課題その他) ・ 情報セキュリティポリシーの提出 ・ 会場 (ウィंकあいち) ならびに付属備品の予約			

業務打合せ・検討会の記録

No. 2

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 1 月 7 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	業務着手時の打合せ(於: 中部地方環境事務所)		
(出席者) 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 コモド: 加藤美奈・小川彩			
(打合せ・検討内容) ・ 仕様書内容の確認 ・ 業務工程、当日のスケジュール確認			
(課題その他) ・ 請書の提出			

業務打合せ・検討会の記録

No. 3

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 1 月 18 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	愛知教育大学 大鹿氏 企画説明、依頼(於: 愛知教育大学)		
(出席者) 愛知教育大学: 大鹿聖公氏 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 コモド: 小川彩・加藤美奈			
(打合せ・検討内容) ・ 企画内容の確認			
(課題その他) ・ 承諾書の送付			

業務打合せ・検討会の記録

No. 4

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 1 月 28 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	運営スタッフの検討		
(出席者) コモド: 小川彩・加藤美奈			
(打合せ・検討内容) ・ 当日の司会、受付スタッフの検討 ・ スタッフ依頼 ・ 当日スケジュールの説明			
(課題その他)			

業務打合せ・検討会の記録

No. 5

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 1 月 29 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	東山動物園 黒邊氏 企画説明、依頼 (於: 東山動物園)		
(出席者) 東山動物園 黒邊雅実氏 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 コモド: 小川彩			
(打合せ・検討内容) ・ 企画内容の説明 ・ 講師依頼 ・ 講演内容の確認 ・ 講演原稿の締め切り、原稿の受け取り方法の確認			
(課題その他) ・ 承諾書の送付			

業務打合せ・検討会の記録

No. 6

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 2 月 3 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	富貴中学校 西尾氏 企画説明、依頼 (於: 武豊町立富貴中学校)		
(出席者) 武豊町立富貴中学校: 西尾一氏 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 ボランティアネイバーズ: 新海洋子氏			
(打合せ・検討内容) ・ 企画内容の説明 ・ 講師依頼 ・ 講演内容の確認 ・ 講演原稿の締め切り、原稿の受け取り方法の確認			
(課題その他) ・ 承諾書の送付			

業務打合せ・検討会の記録

No. 7

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 2 月 5 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	企画内容についての打ち合わせ (於: 中部地方環境事務所)		
(出席者) 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 コモド: 加藤美奈・小川彩			
(打合せ・検討内容) ・ 業務工程、当日のスケジュール確認 ・ パネルディスカッションにおいてのキーワードの検討			
(課題その他) ・ パネルディスカッションにおいてのキーワード案の提出			

業務打合せ・検討会の記録

No. 8

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 2 月 16 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	三重県総合博物館 布谷氏 企画説明、依頼 (於: 三重県総合博物館)		
(出席者) 三重県総合博物館: 布谷知夫氏 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 コモド: 小川彩			
(打合せ・検討内容) ・ 企画内容の説明 ・ 講師依頼 ・ 講演内容の確認 ・ 講演原稿の締め切り、原稿の受け取り方法の確認			
(課題その他) ・ 承諾書の送付			

業務打合せ・検討会の記録

No. 9

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 3 月 5 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	基調講演内容等について (於: 新宿区)		
(出席者) 名古屋大学名誉教授: 安彦忠彦氏 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 ボランティアネイバーズ: 新海洋子氏			
(打合せ・検討内容) ・ 企画内容の説明 ・ 講師依頼 ・ 講演内容の確認 ・ 講演原稿の締め切り、原稿の受け取り方法の確認			
(課題その他) ・ 承諾書の送付			

業務打合せ・検討会の記録

No. 10

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中 部 地 方 環 境 事 務 所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 3 月 22 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ そ の 他
件 名	当日資料(パワーポイント等)の送付(メールによる)		
(出席者) 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 コモド: 小川彩・加藤美奈			
(打合せ・検討内容) ・ 安彦氏: 3 月 15 日受領 ・ 黒邊氏: 3 月 22 日(3 月 28 日最終版)受領 ・ 布谷氏: 3 月 13 日受領 ・ 西尾氏: 3 月 26 日受領			
(課題その他)			

業務打合せ・検討会の記録

No. 11

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 3 月 25 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	企画内容の最終確認、当日スケジュールの確認等 (於: EP0 中部)		
(出席者) 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 ボランティアネイバーズ: 新海洋子氏 コモド: 加藤美奈・小川彩			
(打合せ・検討内容) ・ 企画内容の最終確認 ・ 当日配布資料の確認 ・ 会場レイアウトの確認 ・ 報告書(案)の確認			
(課題その他) 18:00～ウインクあいち下見 ・ PC、プロジェクターの動作確認 ・ 施設利用の説明			

業務打合せ・検討会の記録

No. 12

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中 部 地 方 環 境 事 務 所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 3 月 28 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ そ の 他
件 名	当日配布資料の送付 (於: 中部地方環境事務所・EP0 中部)		
(出席者) 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 ボランティアネイバーズ: 新海洋子氏 コモド: 加藤美奈			
(打合せ・検討内容) ・ 当日配布資料の確認 ・ 当日配布資料の受け取り ・ アンケート内容の確認			
(課題その他) ・ ウィンクあいち 搬入出手続き			

業務打合せ・検討会の記録

No. 13

委託業務名	平成 27 年度中部地域における ESD 推進に関するセミナー 実施業務		
委託者名	環境省 中部地方環境事務所		
受託者名	株式会社 Comodo LABO (通称: コモド)		
実施年月日	平成 28 年 3 月 31 日	区分	業務打合せ ・ 内部検討会 ・ その他
件 名	当日配布資料及び業務報告書の提出		
(出席者) 環境省: 中部地方環境事務所 環境対策課 環境管理専門官 村辻裕樹氏 コモド: 加藤美奈・小川彩 (提出資料) 業務報告書 (案)			
(打合せ・検討内容) 業務報告書 (案) を提示、協議 ・ 報告書 (案) の概要説明 ・ 修正作業について			
(課題その他) 修正作業 → 業務報告書の提出			

資 料 編

- 当日資料一式
- 業務実施フロー
- 当日シナリオ
- 会場レイアウト
- 当日業務スケジュール
- アンケート調査票

●平成27年度 中部地域におけるESD推進に関するセミナー業務実施フロー

区 分	平成27年 12月	平成28年 1月	2月				3月			
委託者(担当官)との打合せ			着手 ○	計画決定 ○		アンケート検討 ○			セミナー直前 業務報告書を作成 ○	
セミナー実施計画の作成				セミナー当日アンケートの提出						
講師等発表者の選定、セミナー資料の作成等				講師との調整 ○						
					○	○	○	○		アンケート作成
										研修資料の作成、印刷 (3/22 厚紙×切)
受講者との連絡調整				受講者の募集						
研修会場との調整、機材準備							会場下見 ○		会場下見 ○	セミナー当日 ○
業務報告書の作成									業務報告書の作成 ○	

平成 27 年度中部地域における E S D 推進に関するセミナー

～学校と地域とのつながりのあり方を考える～

日 時：平成 28 年 3 月 29 日（火）

会 場：ウインクあいち 1301 会議室

－ 作業プログラム －

別紙スケジュールのとおり

－ シナリオ －

13 : 00 受付	■ E S D プログラムの映像の放映 ・会場のご案内：喫煙、ごみの持ち帰りのご協力をお願い
13 : 30 開会	【司会】（5 分） ただ今より、「平成 27 年度中部地域における E S D 推進に関するセミナー」を開催させていただきます。 本日は、お忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。 私は、司会を務めさせていただきます、熊沢でございます。 どうぞよろしくお願いいたします。 初めに本日の配布資料の確認をさせていただきます。 ・配布資料の確認 ※別紙「配付資料一覧」 ・アンケートについて（終了時、中央出入口の回収箱に入れてもらう） 資料の無い方がおられましたら、挙手を願います。スタッフがお伺いします。 よろしいでしょうか。 それでは開会にあたり、主催者からの挨拶と本日の趣旨説明がでございます。 環境省 中部地方環境事務所 環境対策課 むらつじ ひろき 村 辻 裕樹 環境管理専門官 願います。 【村辻】（5 分） <挨拶・趣旨説明> 別紙で作成
13 : 40 基調講演	【司会】 それでは、名古屋大学名誉教授、神奈川大学特別招聘教授 あびこ ただひこ 安彦 忠彦 先生により基調講演をいただきます。 安彦先生は、第 3 期から第 6 期まで中央教育審議会委員として日本の教育政策に深く携わり、たいしよ 大所 こうしよ 高所から学校教育の展望を描いてこられました。 本日は、その深い知見に基づき、「持続可能な社会と学力～現行及び次期学習指導要領をめぐって

	～」と題して講演をいただきます。それでは、安彦先生、よろしくお願いします。 講演（60分） 【司会】 安彦先生、ありがとうございました。
14：40 トークセッション	【司会】 それでは続きまして、安彦先生と国立大学法人愛知教育大学教授 おおしか きよゆき 大鹿 聖公 先生によりますトークセッションに移らせていただきます。大鹿先生は、愛知教育大学理科教育講座において主に地域の教育力向上を目指した理科教員養成カリキュラムの開発、動物園や科学館、博物館と言った社会教育施設を活用した理科授業カリキュラムの開発の研究に取り組んでおります。 なお、愛知教育大学におかれましては、大鹿先生のご助力のほか、本セミナーへの後援など、大きなご支援をいただいております。 それでは大鹿先生、よろしくお願いします。 トークセッション（15分） ※全体の流れは大鹿先生 大鹿先生：問題提起 安彦先生：回答・意見 大鹿先生：まとめ（トークのまとめに重点） 【司会】 安彦先生、大鹿先生、ありがとうございました。
14：55 休憩	【司会】 それでは、ここで一度休憩の時間をはさみたいと思います。 次のプログラムは 15:05 からですので、それまで 10 分ほど休憩時間とさせていただきます。 ■ 会場転換
15：05 パネルディスカッション 事例紹介	それではお時間となりましたので、再開させていただきます。 ここからの進行は、特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズの しんかい ようこ 新海 洋子 様にお願いします。 新海様は、環境省中部環境パートナーシップオフィスのチーフプロデューサーとして、環境省が展開する ESD に関する様々な事業に関わってこられるなど、地方における ESD の推進にも力を注いでこられております。 それでは新海様、よろしくお願いします。 15:06【新海】 ●事例紹介のテーマは「学校と地域が連携によって何が生まれるか」 ・前半の安彦先生と大鹿先生のセッションのふりかえり 「学校が変わろうとしている。学校はなぜ変わらないといけないか。変わろうとしている時に地域はどう関わるか」

●事例の紹介

東山動物園と三重県総合博物館の事例紹介、西尾校長の取組紹介、特に学校と動物園と一緒に環境学習（ESD）に取り組むことでの効果について聞かせていただきたい。中学校での地域と連携した活動や、学校と地域が連携することでのこどもたちの学びの効果についてお聞かせいただきたい。

15：10 活動事例発表① 東山動物園 副園長 ^{くろべ まさみ} 黒邊 雅実 氏（15分）

（略歴）名古屋市緑政土木局 東山総合公園 東山動物園 副園長。教育普及主幹

学校と動物園が一緒になって学習プログラムを実施するとどのような効果が生まれるか。その可能性について。子どもにとって、教員にとって、動物園にとって。

☆ホワイトボードにまとめます。

15：25 活動事例発表② 三重県総合博物館 館長 ^{ぬのたに ともお} 布谷 知夫 氏（15分）

（略歴）三重県総合博物館 館長、博士(博物館学)。

平成8年4月から21年3月まで滋賀県立琵琶湖博物館勤務。同館の名誉学芸員及び研究部・特別研究員

博物館と学校が一緒になって環境学習プログラムを実施するとどのような効果が生まれるか。また、その可能性について。子どもにとって、教員にとって、博物館にとって。

☆ホワイトボードにまとめます。

15：40 活動事例発表③ 武豊町立富貴中学校 校長 ^{にしお はじめ} 西尾 一 氏（10分）

（略歴）武豊町立富貴中学校 校長

学校が地域と連携する場合、学校として何を期待しているのか。

学校が地域と連携することでの、子どもの変化、教員の変化、地域の変化は。

西尾校長先生が考える、学校と地域（人、歴史、環境などあらゆる観点から）の今後の関係性について。子どもの学びや成長を豊かにするために。

☆ホワイトボードにまとめます。

15：50 パネルディスカッション（35分）

※全体の流れは新海さん。

登壇者：西尾氏、黒邊氏、布谷氏、大鹿氏、（進行）新海氏

> 事例報告のまとめとパネルディスカッションで確認したいことの説明（学校と地域が一体となった学習環境のつくりかた等）（1分）

> 大鹿先生に3人の方のお話から、学校と地域が一体となった子どもの学びの場のつくりかた（ESD実践の場づくり）についてコメントをいただく（3分）

> 論点①（12分）

学校と地域が一体となった学習環境（ESDを実践する）をどうつくるか。

・学校が必要とするもの

・地域が提供できるもの

・マッチングを誰がどう行うか

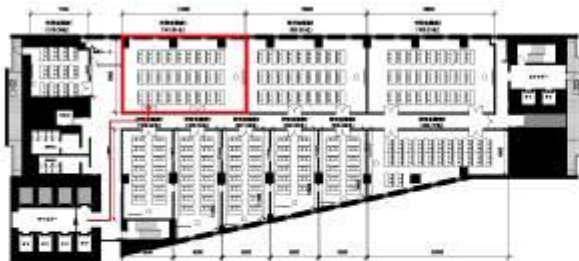
・そのしくみをだれがどうつくるか

	西尾氏 3分 学校が必要とするもの 黒邊氏 3分 地域が提供できるもの 布谷氏 3分 地域が提供できるもの 大鹿氏 3分 マッチングと仕組みについて > 一言ずつ今日のテーマに対してのメッセージ（8分） 西尾氏 2分 黒邊氏 2分 布谷氏 2分 大鹿氏 2分 ☆ホワイトボードに学校と地域の関係性の図を描き、まとめます。 ！！参加者の持ち帰りを明確にする！！ > 学校と地域の連携とESDを整理する。（2分） 16：25 まとめ 安彦先生（5分） > 安彦先生に、今日のまとめをいただく。 今後の地域におけるこどもの学習、学習環境（ESDを実践する）に必須なこと、作り方についてコメントいただきたい。 【新海】 それでは、司会の方に進行を戻します。
16：30 閉会	【司会】 安彦先生、パネリストの皆様、新海様、ありがとうございました。ご登壇いただきました講師・ゲストの皆様には拍手をお願いいたします。 それでは、これより、環境省中部地方環境事務所 環境対策課 課長補佐 曾山 信雄 より閉会の挨拶をさせていただきます。 【曾山】 挨拶 2～3分程度 曾山 様 ありがとうございました。 以上をもちまして、本日のプログラムは全て終了いたしました。 改めまして、本日、ご講演・ご登壇いただきました講師・ゲストの皆様には拍手をお願いいたします。みなさま、本日はありがとうございました。 お帰りの際にアンケートのご記入にご協力お願いします。ご記入いただいた用紙は出口にある回収ボックスに入れて下さい。

◆会場原状回復及び会計等の処理

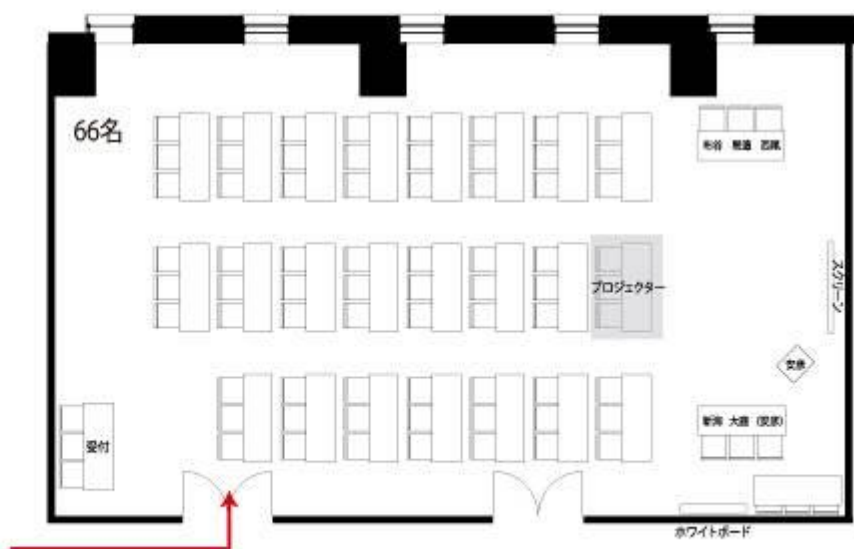
株式会社 Comodo LABO において実施します。

会場レイアウト



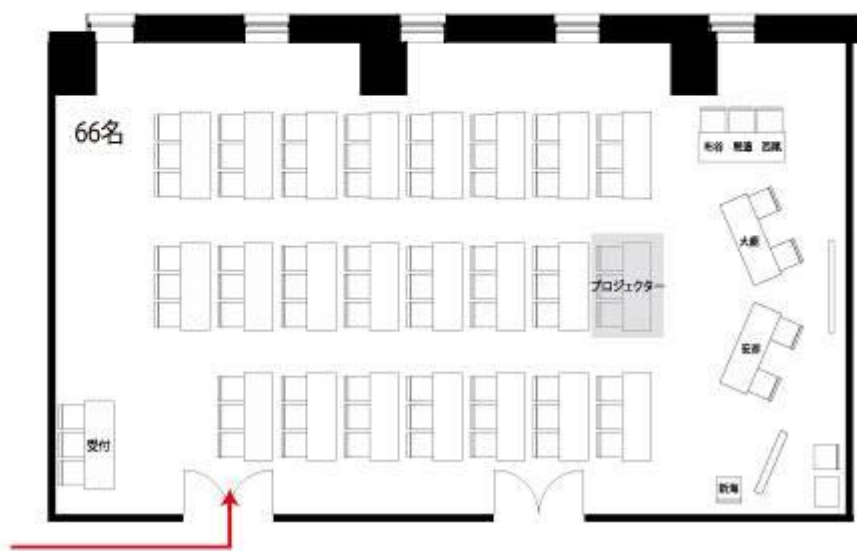
特別会議室A
1301 (81名)

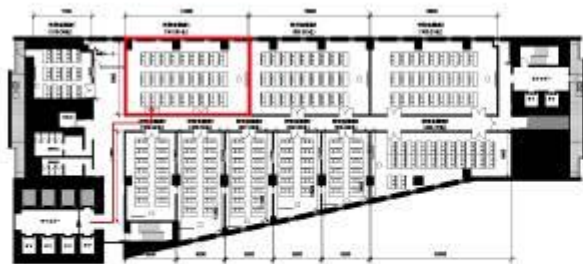
13:45～ 基調講演



特別会議室A
1301 (81名)

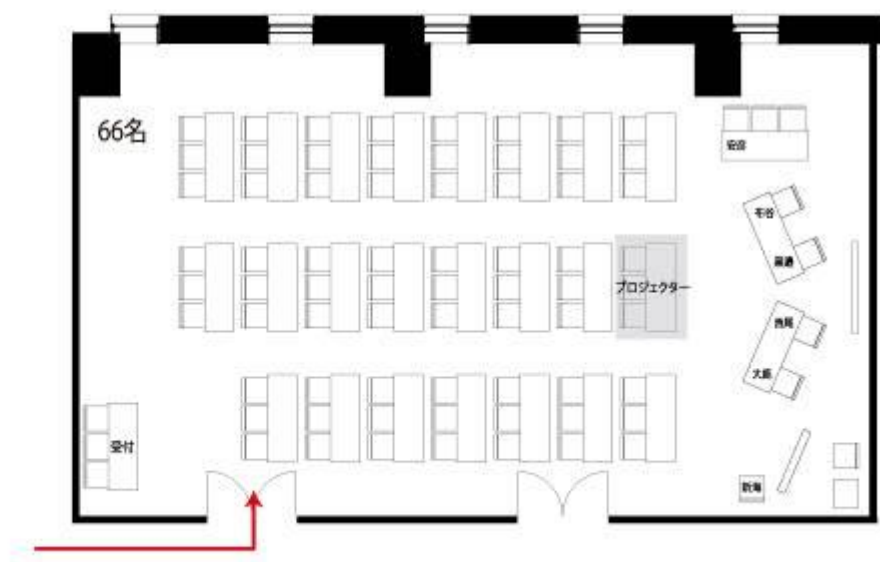
14:45～ トークセッション





特別会議室A
1301 (81名)

15:10～ パネルディスカッション



平成 27 年度 中部地域における ESD の推進に関するセミナー 平成 28 年 3 月 29 日 (火) 13:30-16:30 スケジュール

全体スケジュール		講師	スタッフ				備 品				
ウイングあいち 1301 特別会議室			司会	撮影	進行管理	メイン受け	記録	環境省	Comodo LABO	環境省	
12:00		11:30 打ち合わせ 村田様、新藤様、山口様、黒澤様、 牧原様、大庭様	熊沢	加藤	小川	坂部	内藤	遠佐	村辻	講師対応	
12:30	特別会議室前集合 12:30 ウイングあいちセンター 施設受付手続き 会場設置	12:30 パネルディスカッションの打ち合わせ 新藤様、黒澤様、西尾様	進行 スクリーン 会場設置 の確認	カメラマン 加藤様 黒澤様 小川様	講師対応 資料配布	会場設置 資料配布 設置	進行確認 Kレコーダー 設置			●カメラ×2 ●スタッフ名札 ●ゴミ袋 ●養生テープ ●そうきん ＜受付＞ ●看板 ●受付名簿、筆記用具 ＜机の上＞ ●配布資料(封筒)	●ESDプログラムDVD ●カメラ(事務所でも使える用)
13:00	13:00 受付開始		案内	ESD DVD 映写	受付	報告書				＜司会＞ ●甘本 ●アキラ1 ＜黒澤清太＞ ●PC ●アキラ1 ●アロジエクター ●スクリーン ●Kレコーダー2 ●時間管理	
13:30	13:30 開会の挨拶	13:30 布告録到着	司会	撮影	カメラマン					＜カメラディスプレイ＞ ●PC ●アキラ2 ●アロジエクター ●スクリーン ●Kレコーダー2 ●時間管理	
14:00	13:40 黒澤清太 「持続可能な社会とウイングあいち」 講師：牧原北彦氏(名古屋大学名誉教授・宇都川大学特別招聘教授)				カメラマン 黒澤様 小川様					＜カメラディスプレイ＞ ●PC ●アキラ2 ●アロジエクター ●スクリーン ●Kレコーダー2 ●時間管理	
15:00	14:40 トークセッション 「ESDの推進の現状」 牧原北彦氏×大庭望公氏(愛知教育大学理学科教授・副学長)				カメラマン 黒澤様 小川様					＜カメラディスプレイ＞ ●PC ●アキラ2 ●アロジエクター ●スクリーン ●Kレコーダー2 ●時間管理	
16:00	15:05 パネルディスカッション「学校と地域がつながるために」 進行：新藤洋子氏(岐阜県立岐阜商業高等学校人権コーディネーター・アドバイザー) 15:30 活動事例発表① 黒澤清太氏(岐阜県立岐阜商業高等学校) 15:35 活動事例発表② 市谷知夫氏(三重県松坂町立黒澤小学校) 15:40 活動事例発表③ 西尾一兵衛氏(立川市立立川中学校校長) 15:50 パネルディスカッション 進行：新藤洋子氏 黒澤清太氏×大庭望公氏、黒澤清太氏、市谷知夫氏、西尾一氏 16:25 おとめ 牧原北彦氏 16:30 閉会の挨拶		案内	ESD DVD 映写	受付	報告書				＜カメラディスプレイ＞ ●PC ●アキラ2 ●アロジエクター ●スクリーン ●Kレコーダー2 ●時間管理 ●ホワイトボード ●ペン	
17:00	17:00 撤去・解散		案内	ESD DVD 映写	受付	報告書				＜カメラディスプレイ＞ ●PC ●アキラ2 ●アロジエクター ●スクリーン ●Kレコーダー2 ●時間管理 ●ホワイトボード ●ペン	
18:00			案内	ESD DVD 映写	受付	報告書				＜カメラディスプレイ＞ ●PC ●アキラ2 ●アロジエクター ●スクリーン ●Kレコーダー2 ●時間管理 ●ホワイトボード ●ペン	

名簿

セミナー内容に関するアンケート

1. 本日のセミナー内容について、特に印象に残ったものとその理由についてお答え下さい。(該当項目に○、複数回答可)

ア.基調講演 イ.トークセッション ウ.活動紹介①名古屋市東山動物園 エ.活動紹介②MieMu
オ.活動紹介③富貴中学校 カ.パネルディスカッション

<理由>

2. 本日のセミナー内容について、全体としてはいかがでしたでしょうか？（ご意見・ご感想・ご要望など）

--

- 3.ESD にどのようにかかわられているか教えてください

--

4. 今回のセミナーの内容を、ご自身の活動にどのように活かすことができたと感じられましたか？

--

性別	☐ 女性	☐ 男性
年齢	☐ 20代	☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代～
都道府県		
属性	☐ 教員(小・中・高校・大学) ☐ 教員関係者(大学・教育委員会他) ☐ 市民活動団体/NPO等 ☐ 地域の各種団体(自治会、子ども会、他) ☐ 事業者 ☐ 行政 ☐ その他()	
このセミナーを どこでお知り になりましたか?	☐ チラシ (いつに配られたチラシでしたか?)) ☐ 知り合いから) ☐ ホームページ() ☐ その他()	

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます。
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る
判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[A ランク]のみを
用いて作製します。